

<ちょこっとコラム③⑧>

(神学用語 その②)

「陰府 (よみ)」 *Hades*

「金持ちとラザロ」の物語 (ルカ 16:19-31) には、金持ちが死後、陰府で炎の中もだえ苦しんでいる場面が出てきます。陰府とは下界を指し、地下における死者の住む所と考えられており、旧約では70回、新約では10回記されています。

「ハデス」とはギリシアの神々の一人であって、下界の主とされていたため、ヘブライ語の陰府を示す語「シェオル」の訳語とされました。通常、肉体的な死と最後の審判の間の中間状態を指す言葉とされています。しかし、「金持ちとラザロ」の伝統的な解釈としては、アブラハムがいるのは陰府ではなく天であり、「大きな淵」とは、天と陰府の間にある淵だとされています。